

公表

事業所における自己評価結果(放課後等デイサービス) ※個別療育

事業所名	発達支援施設 はじめの一步須恵事業所		公表日 令和8年3月31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	児童発達支援の集団療育と時間をずらして実施している。	次年度も継続。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	0	子どもと職員が一对一で療育をしている。	次年度も継続。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	軽度知的障がいの子が大多数を占めるため、バリアフリー化はしていない。活動部屋はシンプルな設計になっている。	次年度も継続。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	清掃・消毒を毎日欠かさず行っている。	次年度も継続。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	個別療育のため、基本的に活動する部屋で過ごす事が多いが、場合によっては他の部屋を利用できる体制になっている。	次年度も継続。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	常勤・非常勤を含めた職員会議を定期的に行い、意識の統一を図っている。	次年度も継続。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年に1度、保護者向け評価表のご協力をいただき、集計後の会議にて業務改善に向けての意見を出し合っている。	次年度も継続。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	常勤・非常勤を含めた職員会議を定期的に行っている。	次年度も継続。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	法人内の他事業所職員より、第三者による内部視察を実施している。	専門機関による第三者評価は実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	ZOOM研修や外部講師による研修に参加している。	人員の問題があり、平日に受けたい研修があっても受けられない場合がある。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	作成し、ホームページにて公開している。	ホームページにて公開はしているが、どれほどのような方が閲覧し、プログラムについて把握してくださっているかは不明。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	評価ツールを使用・職員間での会議にてアセスメントを行い、計画を作成している。	次年度も継続。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	児童発達支援管理責任者以外の職員からも意見を聞き取り、多角的な視点から意見を出し合うようにしている。	次年度も継続。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	朝礼や終礼、会議の場にて、計画書の内容について共有を行っている。	次年度も継続。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	全職員が閲覧可能なアセスメントツールを使用しており、各児のカルテにも綴って確認できるようにしている。	次年度も継続。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	ガイドラインに沿って計画書を作成している。	「移行支援」、「地域移行・地域連携」については、これから先更に強化していく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	個別療育担当者が立案している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	達成目標を設定し、それに向かって様々なプログラムを実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	2	3	個別療育のみ実施。	法人内の他事業所との交流など増やしていけると良い。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	支援前に打ち合わせを行い、療育内容だけではなく注意事項やリスク管理について共有している。	次年度も継続。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	療育後にその日のこどもの様子を共有し、次の療育に活かしている。	次年度も継続。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	ケース記録を記載し、内容を振り返りながら次回の支援内容を検討している。	次年度も継続。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	半期に一度実施している。	次年度も継続。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1	「自立支援・日常生活の充実」、「創作活動」については支援の中に組み込む事ができている。	「地域交流」、「余暇の提供」については十分ではない為、法人内の放課後等デイサービスと連携しながら強化していく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	いくつか選択肢を提示し、自分でプログラムを決めるという取り組みを行っている。	次年度も継続。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	管理者や児童発達支援管理責任者、療育担当者が出席している。	次年度も継続。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	必要に応じて園と関係機関連携会議を開催している。	次年度も継続。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	0	5	保護者送迎による個別療育の為、保護者を通して行事等の確認を行っている。	必要に応じて小学校と連携を図る。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	新1年生からの利用の場合は、就学前の関係機関からの情報収集に努めている。	次年度も継続。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3	該当者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	5		必要に応じて児童発達支援センターとのやり取りを行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5	未実施。	1時間の個別療育という限られた時間の中では難しいが、法人内放デイと協力して機会の提供を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	児童支援部会に出席している。	次年度も継続。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	可能な限り療育の見学をしていただき、療育終了時にフィードバックしている。	次年度も継続。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	療育時に対応方法や関わり方について助言を行っている。	研修の機会や情報提供を強化していく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時への説明と事業所内掲示にて周知を図っている。	次年度も継続。	
37	放課後等デイサービス計画書を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	ニーズを聞き取り個別支援計画書に反映している。	次年度も継続。	

保護者への説明等	38	放課後等デイサービス計画書を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	計画書の内容を提示しながら説明を行い、ご署名をいただいている。	次年度も継続。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	療育見学时や送迎時に行っている。	次年度も継続。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5		集団療育の親子イベントにて交流の機会を設けていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	管理者および児童発達支援管理責任者に報告する体制を統一している。	次年度も継続。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	0	5	個別療育は保護者同伴のため、子どもの様子に関して、通信等での発信は実施していない。	必要に応じて検討。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	契約時に個人情報保護について説明を行っており、写真等の利用についてはダブルチェックを行っている。	次年度も継続。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	傾聴姿勢と必要な情報を端的に伝えるよう配慮している。	次年度も継続。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		個別療育では行事を実施していない為、今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	各マニュアルを策定している。	個別療育時に避難訓練は実施していないため、自然災害が起きた時の動きについて保護者説明を行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPを策定し、年に1回以上見直しを行っている。	次年度も継続。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	利用開始前にアレルギーについての聞き取りを行い、情報を職員間で共有している。	次年度も継続。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	4	可能であれば指示書のコピーをいただき、対応している。	次年度も継続。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	自然災害や感染症、熱中症等のマニュアルを策定し、定期的に見直しと共有を行っている。	次年度も継続。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	4		保護者への周知が十分ではないため、今後強化していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	小さなことでもヒヤリハット事案として挙げ、法人内の他事業所とも共有しながら再発防止に努めている。	次年度も継続。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	年2回以上の虐待防止研修を行っている。	次年度も継続。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	契約の際に身体拘束について保護者説明を行っている。	次年度も継続。	